

○大城篤・安藤さやか*・澤岨哲也・河野伸二・上原美歌

Phoma sp. によるニガウリ実腐病（新称）の発生とその発生生態の解明

Ooshiro, A., Andou, S., Takushi, T., Kawano, S. and Uehara, M.: Ecology of *Phoma* sp. Isolated from Fruit rot of Balsam pear

梅雨時期の6~7月に収穫され、県外出荷された沖縄産ニガウリ（ゴーヤー）において、はじめ傷部位から水浸状に腐敗が進行し、後に白色菌糸が腐敗部位を覆い、最終的に果実が崩壊する市場病害が多発し問題となっている。罹病果実からは *Phoma* sp. が高率に分離され、分離菌の培養菌叢片を健全果実に有傷接種した結果、同様の病徴が再現され、同一菌が再分離された。本菌のPDA培地上での菌叢は、暗褐色を呈し、柄子殻は褐色、球~偏球形で大きさ70~150×70~150 μm、柄胞子は無色、楕円形、単胞で大きさ5~10×2.5~3.8 μmであった。以上より、本病名をニガウリ実腐病（fruit rot）と命名したい。本菌の接種試験圃場において、うどんこ病で罹病枯死し、湿った葉を顕微鏡観察したところ、本菌が確認された。うどんこ病の罹病葉における本菌の分離率を調査した結果、発病指数が高まるにつれて本菌の分離率が高まった。本病害の発生はうどんこ病の発生と関係していることが示唆される。

(沖縄農試・*八重山農改)

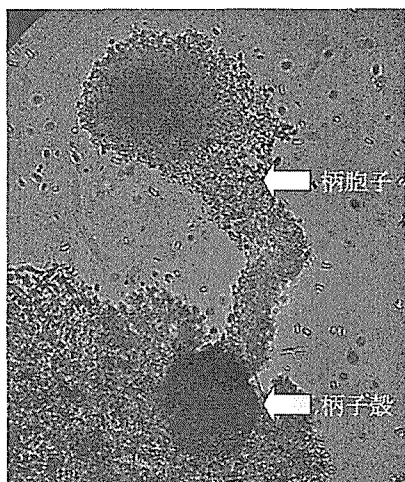


図 うどんこ罹病葉組織で観察された *Phoma* sp. の柄子殻と柄胞子

表 うどんこ罹病葉切片(25片)からの *Phoma* sp. の分離率

発病指数 ¹⁾	分離糸状菌数	<i>Phoma</i> sp. 菌数	分離率(%)
1	2	0	0
2	10	3	30.0
3	17	7	41.2
4	22	16	72.3

1) 1:病斑面積率5%未満、2:同5%以上25%未満
3:同25%以上50%未満、4:同50%以上

菌類病

分類・同定, 発生生態

ニガウリ

ニガウリ実腐病, *Phoma* sp., うどんこ病

大城 篤

ooshirat@pref.okinawa.jp